

令和6年2月1日（木）

令和5年度 東京都発達障害者支援地域協議会

# 令和5年度 東京都発達障害者支援センター（おとなTOSCA） 活動報告

## ③成人期発達障害者支援力向上研修



# R5年度\_③\_成人期発達障害者支援力向上研修概要

## 専門的人材育成研修Ⅰ 講演会、機関交流・情報交換

「発達障害の正しい理解～発達障害の人もそうでない人も豊かに暮らしていくために～」

講師：加藤 進昌

令和5年7月29日(土) 参加人数：24名

## 専門的人材育成研修Ⅱ パネルディスカッション

「成人期の発達障害のある人たちの社会生活における自衛と支援を考える」

講師：加藤 進昌 (おとなTOSCAセンター長・公益財団法人神経研究所理事長)

根本 真希代氏(小石川東京病院 精神科医)

伊藤 克之氏(日野アビリティィ法律事務所 発達障害者法律相談室・弁護士)

鈴木 慶太氏(株式会社Kaizen 代表取締役)

令和5年9月9日(土) 参加人数：18名

## 専門的人材育成研修Ⅲ 支援困難事例検討会

○ 司法(借金・相続、後見人、労働)関連コース 令和5年11月11日(土) 参加人数13名

講師：伊藤 克之氏(前掲)

櫻田 万里氏(アスペルガー・アラウンド代表)

滝口 仁氏(東京・多摩「大人の発達障害」当事者会代表世話人・HINO 飛ぶ教室 代表)

○ 医療(二次障害関連)コース 令和5年11月20日(月) 参加人数7名

講師：根本 真希代氏(前掲)

新谷 三世氏(医療法人FLATSヒルサイドクリニック 公認心理師)

山本 梨沙氏(医療法人社団幸悠会 逸見病院 精神保健福祉士)

○ 福祉(就労)関連コース 令和5年11月25日(土) 参加人数16名

講師：鈴木 慶太氏(前掲)

渡辺 祥子氏(相談支援事業所Kaizen新宿 相談支援専門員)

高間 裕人氏(就労移行支援/就労定着支援事業所Kaizen秋葉原サテライト)



# R5年度\_③\_成人期発達障害者支援力向上研修

## 専門的人材育成研修Ⅰ 講演会、機関交流・情報交換

「発達障害の正しい理解～発達障害の人もそうでない人も豊かに暮らしていくために～」

講師：加藤 進昌（公益財団法人神経研究所 理事長 精神科医）

「機関交流・情報交換会」

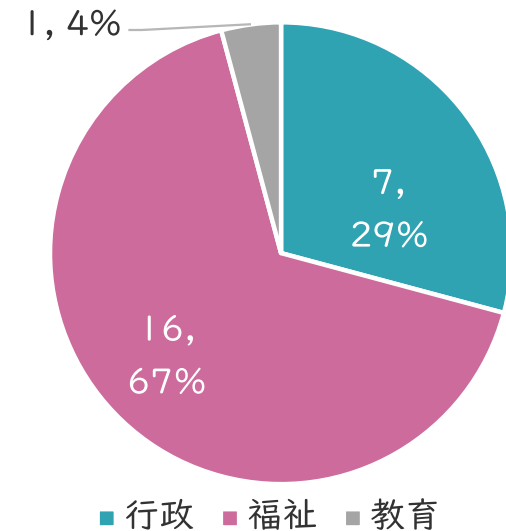
令和5年7月29日(土) 参加人数：24名（申込25/定員30）

（参加して何を得ましたか？）

- ・発達障害の過剰診断が横行していること、医療に期待しすぎず、自身の対応や環境の整備をもっと丁寧に時間をかけていきたい
- ・発達障害のある人の特徴と医療等を知ることができた
- ・似たような方が例に挙がっていたので参考になった
- ・様々な職種の方との情報交換、様々な場面での発達障害への対応に関する問題や情報を得ることができた

（学んだことを今日からどう活かしますか？）

- ・発達障害の方へ寄り添いつつ、客観的な視点も忘れずに対応していきたい
- ・本人にわかるように説明し、本人の歩み寄れる範囲なのかそうでないのかを見極め、対象者が上手く社会と関われるように支援していきたい
- ・知識を実践で活用できるように、本日の事例にあてはめて考えてみるとともに、他職種連携も促進する



# R5年度\_③\_成人期発達障害者支援力向上研修

## 専門的人材育成研修Ⅱ パネルディスカッション

「成人期の発達障害のある人たちの社会生活における自衛と支援を考える」

講師：加藤 進昌（公益財団法人神経研究所理事長 精神科医）

根本 真希代氏（小石川東京病院 精神科医）

伊藤 克之氏（日野アビリティィ法律事務所 発達障害者法律相談室・弁護士）

鈴木 慶太氏（株式会社Kaizen 代表取締役）

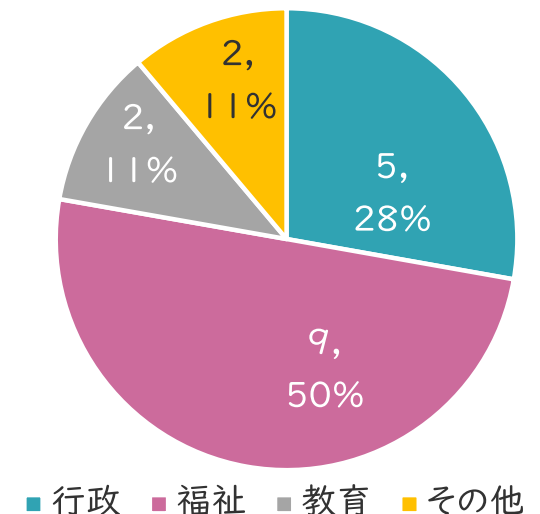
令和5年9月9日（土） 参加人数：18名（申込24/定員30）

（参加して何を得ましたか？）

- ・各分野での現状と発達障害者支援の課題を知ることができた
- ・発達障害を変えることは出来ないなので周囲の意識や接し方を変えていく必要性を学んだ
- ・いずれ「支援」がなくても「自衛（自分で自分を守る）」ひいては「自活（自分の生活を楽しめる）」できるよう助言や提案をする関わりが重要であることを認識した

（学んだことを今日からどう活かしますか？）

- ・周囲の関わり方の相談、社会保障制度の案内
- ・職場の同僚に情報提供する
- ・発達障害を疑っている相談者に対し、他の疾患や境界性知能の可能性も考える
- ・障害の特性だからと一括りにはせず、個性のある人として接していく
- ・事例は生きた学びなので、事業所内で共有しみんなの体験にする
- ・対話を諦めない、行動を待ち、確認する



## 専門的人材育成研修Ⅲ 支援困難事例検討会

○ 司法(借金・相続、後見人、労働)関連コース 令和5年11月11日(土)

講師：伊藤 克之氏(前掲)

櫻田 万里氏(アスペルガー・アラウンド代表)

滝口 仁氏(東京・多摩「大人の発達障害」当事者会代表世話人・HINO 飛ぶ教室 代表)

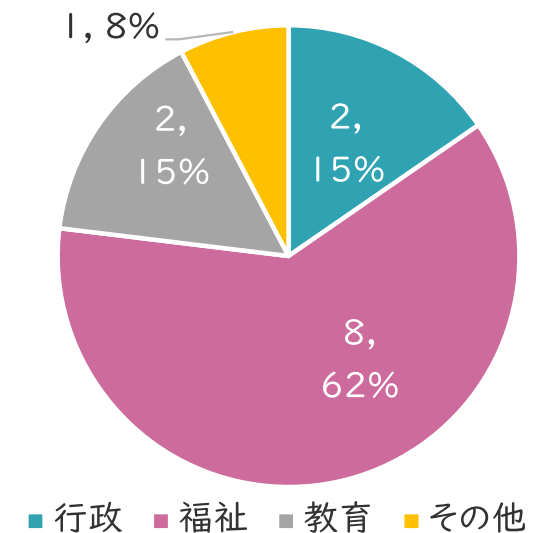
参加人数：13名 (申込13/定員30)

(参加して何を得ましたか?)

- ・ 本人の意欲に関わることができる機関がとても重要であること
- ・ いろんな立場の方と関われることの必要性 (支援者を多角的に教えることの重要性)
- ・ 実ケースに対して検討できたこと
- ・ 普段司法分野に関わる機会が少ないため、情報や体験を知ることができた

(学んだことを今日からどう活かしますか?)

- ・ 本人への相談の必要性をよく理解してもらえるような関りを行う
- ・ 当事者を中心として様々な視点から関わることができる人、関係機関との連携強化
- ・ サービスを提供する前に、しっかりと成育歴の確認を行う
- ・ 局所的な回答にならないように注意する



## 専門的人材育成研修Ⅲ 支援困難事例検討会

○ 医療(二次障害関連)コース 令和5年11月20日(月)

講師：根本 真希代氏(前掲)

新谷 三世氏(医療法人FLATSヒルサイドクリニック 公認心理師)

山本 梨沙氏(医療法人社団幸悠会 逸見病院 精神保健福祉士)

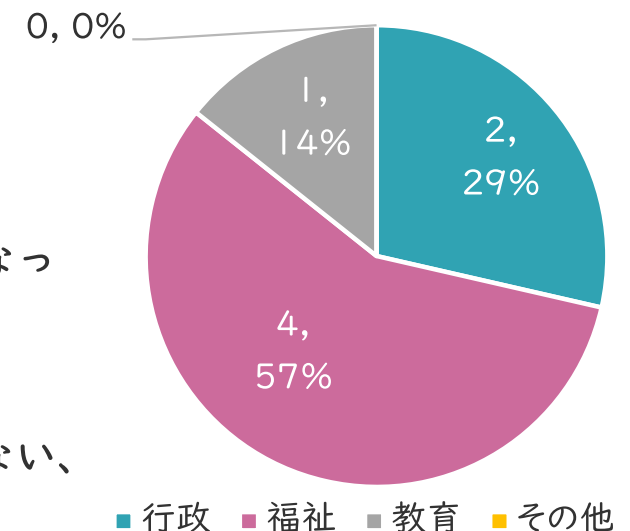
参加人数：7名 (申込10/定員30)

(参加して何を得ましたか?)

- ・成人への関わりの理解は、同時に今の子どもたちへの支援にもなっていることを学んだ
- ・病院の選び方 (MSWを活用できる場所を探す)
- ・医療は敷居が高いと感じていたが、巻き込まなければならない
- ・困った時に地域で働く多くの職種に相談する必要性、抱え込まない、支援機関で痛み分けをすることを学んだ

(学んだことを今日からどう活かしますか?)

- ・対象者が安心できる居場所の一つとなれるような能動的な関りを心がける
- ・医療との関わり方、つなぎ方を知ったので実践する
- ・今日の知見を同僚にシェアする
- ・相談者の声かけをはばひろく余裕を持っていく
- ・「自衛」「自活」のため、いつかはフェードアウトする支援を心がける



## 専門的人材育成研修Ⅲ 支援困難事例検討会

○福祉(就労)関連コース 令和5年11月25日(土)

講師：鈴木 慶太氏(前掲)

渡辺 祥子氏(相談支援事業所Kaizen新宿 相談支援専門員)

高間 裕人氏(就労移行支援/就労定着支援事業所Kaizen秋葉原サテライト)

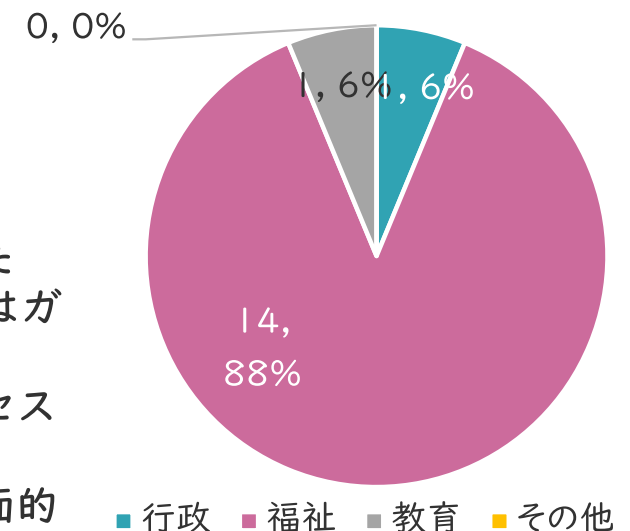
参加人数：16名 (申込18/定員30)

(参加して何を得ましたか?)

- ・自身の支援方法が他の支援者と一致していることが自信になった
- ・ASD支援は本音より具体、就労ピラミッドはそもそも発達障害はガタついているという支援経験から感じていることが言語化された
- ・事例と主治医の中身に差があり、家族や関係機関から幅広くアセスメントする必要があることを感じた
- ・困難事例と比較的に提携の事例があり、比較することにより多面的な支援が展開できると感じた

(学んだことを今日からどう活かしますか?)

- ・当事者が置かれている状況を深く知る
  - ・アセスメントの観点を事業所でブラッシュアップする
  - ・診断を鵜呑みにせず、聞き取りやアセスメント、観察を重要だと思
- いその方向性を大切にする
- ・出来ないことを明確にする
  - ・リアルニーズの抽出
  - ・ケース検討会を自施設でも行えるように働きかける



支援機関の方々が参加しやすいであろうと想定して調整した土曜日は、（リマインドの電話連絡で知ることとなったが）多くの行政関係者の参加が難しいとのことであり、参加者は福祉機関が中心であった。

上記の原因は、研修計画に関し、年度初めに年間のスケジュールを提示することができなかったことも一因である。そのため、困難事例検討会を1ヶ月のうちに3回実施し、そのうち2回は同じ週に開催することとなってしまった。

反省すべき事柄ではあるものの、一方で着目すべき点もあり、少人数ゆえの時間配分や一例一例に対する各機関・専門職の視点からの活発な検討が図れた。

成人期の困難事例では、触法もなくはないが事例としては少なく、それ以上に現場では金銭管理や就労支援、医療との連携に課題を感じていることがアンケートからもうかがえた。

次年度は、年間スケジュールを早めに提示し、各自治体を通じての案内をしていただくとともに、区部と多摩地区、それぞれで困難事例検討会を開催することを予定している。開催を区部と多摩地区に分けること、参加者と講師の負担も考慮し、それぞれの地区では同日内に3分野の困難事例検討会を開催していくよう調整を図っている。